

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊豆市立修善寺南小学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	第4学年 53名 職員 3名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育・道徳・外国語活動 ） 行事名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ 朝活動「体カアップ」 ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>オリンピック・パラリンピックについて調べることにより、スポーツには様々な種類のものであることを知り、実際に体験することを通してスポーツへの興味・関心を高めたり、積極的に取り組んだりするようになる。</p>
5 取組内容	<p>① 10月26日 生涯スポーツ「グラウンドゴルフ」に挑戦 【4年】</p> <p>地域のお年寄りが毎週取り組んでいる「グラウンドゴルフ」を実際にお年寄りから教えてもらいながらやってみた。体力的な負担も少なく、ルールも簡単で誰でも楽しくプレーすることができる競技があることを知る。</p>  <p>② 12月10日以降</p> <p>8の字跳び「めざせ！ 県ランキング！！ 私たちのオリンピック」【全校】</p> <p>全校児童が毎週水曜日の朝、県が主催する体カアップコンテストの県のランキング入りをめざして「8の字跳び」にチャレンジしてきた。当初は、低学年児童が要領を得るために、1年から6年までの縦割り活動として取り入れた。全校が一堂に会して実施するのは、毎週水曜日の8時から10分程度であるが、「私たちのオリンピック」と称して、クラス単位で朝活動の前や休み時間のグラウンドで自主的に練習する姿も見られた。クラスの団結も高まり、運動の苦手な子も周囲の子に励まされながら練習に加わっていた。</p> <p>残念ながら4年生は入賞できなかったものの、2年生が「8の字跳び」部門で県2位と5位になった。</p> 

- ③ 1月11日 【3・4年】
 1月21日 【5・6年】 } 市国際交流員による出前講座
 1月22日 【1・2年】

当市オリンピック・パラリンピック推進課に所属しているカナダ国籍の国際交流員 タナー・タラーリ 氏による出前講座。

タナー氏よりオリンピック・パラリンピックの概要についての話を聞いた後、子どもたちはカルタ形式でオリンピック・パラリンピックの様々な競技について、知ることができた。様々な競技について知ることによって、スポーツへの興味・関心を高めた。



- ④ 2月18日 道徳「ゆめに向かって、ジャンプ！」 【4年】

〈内容項目〉 希望と勇気、努力と強い意志

〈主 題〉 希望をもって

〈資料内容〉 パラリンピアン・佐藤真海さんが病によって希望を失いかけたとき、それまでの自分を振り返り、常に目標に向かって頑張ってきたことを思い出して、「走り幅跳び」にチャレンジしてロンドンパラリンピックに出場を果たしたという実話。

〈授業を通して〉

学習はもとより、自分が取り組んでいるスポーツなどで目標を立て、今後の取組への決意を新たにした。中には、今体育で取り組んでいる授業で「50m走のタイムを8秒」と設定した児童や、「ハードルで倒さないで走りきる」と目標を設定した児童もいた。



- ⑤ 2月26日 体育 【4年】

「ハードル走：げん界への挑戦！とびリンピック！！」

これまでの学習をもとに、スポーツへの興味・関心を高めてきた児童が、体育の「ハードル走」に一人一人が目標をもち、一回一回の試技に意欲的に取り組むようになった。また、後半には、歩数を合わせることを意識したり、タイムなどを設定したりして各自がイメージした跳び方や目標に近づくよう、教師や友達に積極的にアドバイスを求める姿が見られた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックが徐々にではあるが、身近なものとして捉えられるようになってきた。自転車競技の開催市に住む一人として、「どうすれば良いか」「何が出来るか」を考え、「駅周辺の掃除をしよう」「駅周辺で修善寺を訪れてきた人に進んであいさつをしよう」とする子もいた。 ・多様なスポーツとふれあうことで、体育の授業に苦手意識をもっていた児童も、体力的な負担の少ない競技に意欲的に取り組んだり、他のスポーツへの関心を高めたりした。 ・何事にも目標をもって取り組むことの大切さを理解し、運動だけではなく学習をはじめ次年度から始まる委員会活動など多岐にわたり目標をもつ姿が見られるようになった。 ・県ランキングが終わった後もクラス単位で長縄跳びにチャレンジしている姿も見られるが、朝のサーキットトレーニングも再開し、積極的に朝から寒いグラウンドで体を動かしている子どもたちの様子が見られる。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお年寄りが健康のために取り組んでいる生涯スポーツにまで拡げて子どもたちがられあえる機会をもったことで、スポーツのイメージが拡がり興味を高めることへとつなげることができた。 ・市国際交流員の出前講座を受講したことで、夏・冬問わずオリンピック・パラリンピックの数多くの種目を知ることができて、スポーツへの関心をいっそう高めた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習で、“福祉”をテーマとして学んでいる4年生だが、ハンデをもちながらも目標に向かって日々努力するパラリンピアンとの交流がもてると良かった。 ・それぞれの活動が「点」であり、それらの「点」をつなげて「線」にしてこそ本事業の目的に近づけるものと考えます。そのため、各活動の事前事後の指導も含めてつながりを意識し、「線」としてのより効果的な活動になるようにしていきたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今年度、本校の卒業生で現在 日本体育大学に在籍し、東京パラリンピック出場をめざしている 鈴木 雄大 さん(陸上部・パラブロック所属)の存在を知った。早速、今年度内の来校を交渉してきたが、国外遠征や合宿等で日程の調整がつかなかった。</p> <p>来年度は、早々より交渉・調整を進め、ぜひ本校に来ていただき、計画的に学習・活動とつなげる中で、本校児童とふれあえるようにしたい。</p> <p>なお、当日の様子については、保護者をはじめ地域の方々にも参観していただき、多くの方々に本活動を伝えていけるようにしていきたいと考えている。</p>